

# 2019年度 医学部 IR 報告書

—2018年度卒業生を対象とした

卒業コンピテンス・コンピテンスー到達度調査（学生自己評価）—



藤田医科大学 | IR推進センター  
医学部 | IR分室

2019年 9月 24日



藤田医科大学 IR推進センター

医学部 IR分室

## 2019年度 医学部 IR報告書

—2018年度卒業生を対象とした

卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）—

1. 2018年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）の概要
2. 卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計・分析結果

## 2019年度 医学部 IR 報告書

### —2018年度卒業生を対象とした 卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）—について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医学部 I R分室では、2018 年度に医学部を卒業した学生を対象として卒業コンピテンス・コンピテンス到達度調査（学生自己評価）を実施・分析しましたので、その結果について報告いたします。

2019年9月24日

2019年度 藤田医科大学 I R推進センター 医学部 I R分室

飯塚成志、鈴木茂孝、古澤彰浩、一瀬千穂、鏡裕行、若月徹、  
川戸美由紀、藤江里衣子、山本正樹、中村早紀、近藤宏美

## 1. 2018年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー 到達度調査（学生自己評価）の概要

### 1-1) 背景と目的

本学医学部は従来プロセス基盤型教育が行われてきたが、平成27年度第1～3学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を採り入れた新カリキュラムに移行している。

これに伴い医学部の使命に基づき、卒業時にすべての本学卒業生が身につける能力として「卒業コンピテンス（I～VIIの7領域）」および「卒業コンピテンシー（合計37領域）」を定めた。低学年における教科から、テーマに沿って段階的に実践力（応用力）を積み上げていき、卒業時に身につける能力をパフォーマンス・レベルとして評価する形でカリキュラムが構成されている。

このような手法は全国の多くの医学部・医科大学で採用されているが、現時点では実のところ、コンピテンス・コンピテンシーの多くの項目に対する有効な評価方法は確立していない。仮に知識や診察・診療技術は従来の筆記試験・実技試験で評価できるとしても、プロフェッショナリズムやコミュニケーション能力、専門職連携の実践、独創的探究心などの項目について卒業時に「実践できる」ことを評価することは難しく、手法は確立していない。他者評価としてルーブリックを使用する方法も考えられるが、そもそもどの程度、どう実践できればよいかの明確な基準もないのが現状である。従来こうした項目は実習等への参加とレポート提出等によって修得できたものとみなし、信頼性・妥当性を有する方法では評価されずに、あるいは全く評価のないままに卒業させていたということもできる。

しかしながらこうした項目について、卒業生が修得したことを本学医学部として担保することの重要性は論を待たない。そこでどの程度の到達度が得られているかを調査する目的で、卒業時には本学のコンピテンス・コンピテンシーが求める水準は理解できているであろうという前提に基づき、卒業生が自らの修得到達度を自己評価するアンケート調査を実施することとした。結果は医学部のカリキュラム全体を俯瞰した改善に資するため、利用するものとする。

### 1-2) 実施方法

医師国家試験が終わった直後（翌々日、2019年2月12日）に大学に集合した卒業予定学生に協力を仰いでアンケートを行った。質問紙を用いた匿名の調査で2016、2017年度に引き続き同一の内容であり、卒業コンピテンス7領域およびコンピテンシー37項目のそれぞれについて、修得度を6段階リッカード尺度で自己評価するものである。学生への案内文、および調査票を巻末に示す。

## 2. 卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計・分析結果

2018年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計結果を以下に示す。

### 2-1) 実施状況

自己評価調査の実施状況を示す。

対象者： 115名（2018年度医学部卒業生）

調査日時： 2019年2月12日（火） 午前10時～12時

回答者： 113名（回答率98.3%）

### 2-2) 集計結果

各項目に対する自己評価リッカード尺度の単純集計結果を表2-1に示す。この各項目平均を昨年度平均と比較した結果が表2-2、散布図が図2-1である。また今年度の各項目平均をグラフにしたものが図2-2である。表・図においてV-4の\*は、当該年度卒業生の入学以降に新設されたコンピテンシーであることを示す。

### 2-3) 分析結果

昨年度の調査結果では自己評価リッカード尺度の平均は4.434、今年度は4.565で、わずかに上昇していた。各項目間の相関係数は $r=0.9481$ と極めて高い相関を示し、昨年度と全体の傾向に大きな変化はみられなかった。

項目間を比較すると、I-3「医学倫理について理解し、それに基づいて行動ができる」、I-4「個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる」、III-2「医師の役割を理解できる」、III-3「患者の問題を多職種で解決に向けて取り組むことができる」の4項目が尺度平均4.8を超えていた。

I-3は医師の倫理、I-4は藤田医科大学病院の理念「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん。」に通じる項目であり、医師のプロフェッショナルリズムにかかわる。一方III-2、III-3は多職種連携・チーム医療にかかわる項目で、アセンブリ精神に通じる。いずれも本学の理念を反映した結果と解釈することができ、これらコンピテンシーの醸成にあたって、本学カリキュラムが一定の効果を上げていると考えられる。

一方IV-9「医学英語」は尺度平均4.133と低い自己評価であった。本学医学部では1～3年生でMedical Englishなど医学英語カリキュラムを採用しており、また医師国家試験等の医療英語問題でも全国平均を上回る結果となっているが、自信をもって医療に臨める自己評価には至っていないことがうかがえる。また科学研究の方法論、情報収集、プレゼンテーションなどに関するコンピテンスV、およびコンピテンシーV-1～4の各項目は全て尺度平均4.5以下と低めの自己評価となっており、研究を重視する藤田学園ビジョンの観点からも改善すべきと考えられた。特にV-4「海外での研究に従事することができる語学力を有する」では尺度平均3.894ともっとも低い結果となっており、「最低水準に届かない」との自己評価が28名（24.8%）あった。2-2)に記載の通りカリキュラムに十分反映されてこなかった新設コンピテンシーであるが、語学力と研究の共通集合の項目で最低評価となったことは象徴的と言える。学術論文を読んだり研究に関する講演に接したりする機会が学生時代にほとんどなく、多くの医学部で実施されている英文論文を読む科目が皆無に等しいことを反映している可能性がある。現在3年生を中心に各学年でのカリキュラム改定が進められているが、結果を踏まえてしっかりと改善していくべき課題である。

表2-1 集計結果（各項目に対し、それぞれの数値尺度を選択した人数を示す）

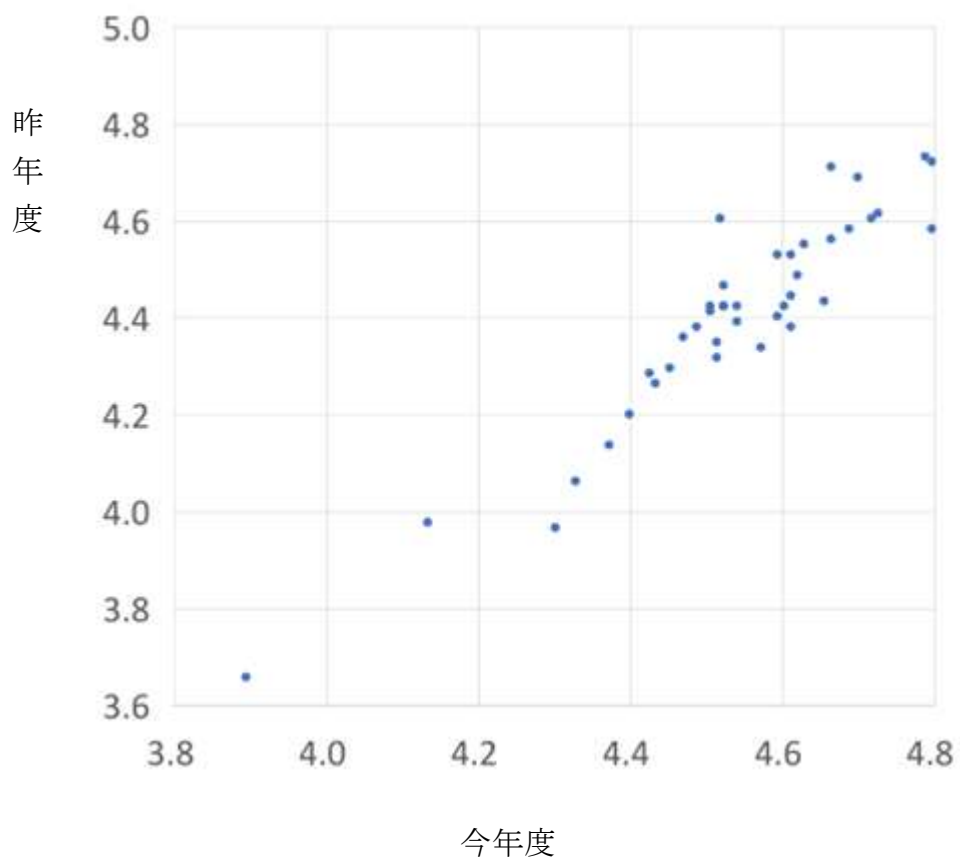
コンピテンス/コンピテンシー項目		1	2	3	4	5	6	平均
I. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に自己に頼ることなく協調性、責任感、倫理観を有して行動できる。生涯にわたり、向上心を持ち自己研鑽に励む自覚を有する。	C-I	1	2	10	35	54	11	4.522
1. 医師として常識ある行動がとれる。	I-1	0	2	9	30	56	16	4.664
2. 医療にかかわる法律を理解し遵守できる。	I-2	0	2	8	36	43	23	4.646
3. 医学倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。	I-3	0	1	8	27	50	27	4.832
4. 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。	I-4	0	1	7	26	51	27	4.814
5. 自己評価を怠らず、自己管理できる。	I-5	0	3	13	30	56	11	4.522
6. 他者に対して適切な助言、指導ができ、他者からの助言、指導を受け入れられる。	I-6	0	2	7	30	56	18	4.717
7. 社会から期待される医師の役割を説明できる。	I-7	0	3	10	32	49	19	4.628
II. 藤田保健衛生大学医学部学生は卒業時に、お互いの立場を尊重して、相手から信頼される関係を築き、適切なコミュニケーションを実践することができる。	C-II	0	0	10	37	47	19	4.664
1. 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。	II-1	0	0	10	29	49	25	4.788
2. 医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。	II-2	0	2	11	25	56	19	4.699
3. 異文化を背景とする他者との適切な意思疎通の重要性を説明できる。	II-3	0	6	9	34	47	16	4.478
III. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に、専門職連携を実践できる。	C-III	0	0	12	33	54	14	4.619
1. 他職種の役割を理解し、尊重することができる。	III-1	0	0	6	35	48	24	4.796
2. 医師の役割を理解できる。	III-2	0	0	6	30	54	23	4.832
3. 患者の問題を多職種で解決に向けて取り組むことができる。	III-3	0	0	7	26	60	20	4.823
IV. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し応用できる。	C-IV	0	2	10	38	53	10	4.522
1. 正常な構造と機能	IV-1	0	1	9	40	49	13	4.531
2. 発達、成長、加齢、死	IV-2	0	1	7	41	52	12	4.593
3. 心理、行動	IV-3	0	2	8	37	51	15	4.611
4. 病因、構造と機能の異常	IV-4	0	2	7	38	52	14	4.611
5. 診断、治療	IV-5	0	1	7	42	48	15	4.611
6. 医療安全	IV-6	0	1	7	32	55	18	4.726
7. 疫学	IV-7	0	4	12	40	46	11	4.425
8. 医学統計学	IV-8	0	4	13	42	45	9	4.372
9. 医学英語	IV-9	3	6	19	37	41	7	4.133
V. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時にグローバルな視野に立って科学に興味を持ち、疑問点に対して解決するために行動することができる。	C-V	0	5	10	39	46	11	4.354
1. 自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法論を学び、応用することができる。	V-1	1	3	11	43	45	10	4.398
2. 論文等の情報を適切に収集することができる。	V-2	0	8	10	42	43	10	4.327
3. 収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。	V-3	3	3	15	37	46	9	4.301
4. *海外での研究に従事することができる語学力を有する。	V-4	7	13	16	35	33	9	3.894
VI. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に患者に対しての同情心をもち、科学的根拠に基づいた安全な診療を実施できる。	C-VI	0	3	7	36	54	13	4.593
1. 病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。	VI-1	0	3	6	45	49	10	4.504
2. 基本的臨床手技を安全に実施できる。	VI-2	0	2	10	43	44	14	4.513
3. 病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。	VI-3	0	4	10	41	45	13	4.469
4. 頻度の高い、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。	VI-4	0	1	9	48	42	13	4.504
5. 診療録を正確に記載し、診療情報を上級医に報告できる。	VI-5	0	1	11	44	43	14	4.513
6. 症例についての要約（サマリー）を作成し、プレゼンテーションできる。	VI-6	0	1	10	49	43	10	4.451
7. 病状説明や患者教育に参加できる。	VI-7	0	1	11	45	44	12	4.487
8. 個人情報保護を理解し厳守できる。	VI-8	0	2	6	35	40	30	4.796
VII. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に地域社会の保健・医療・福祉の施策に協力・推進し、公衆衛生の向上と増進に寄与できる。	C-VII	0	1	10	42	47	13	4.540
1. 社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。	VII-1	0	1	7	50	40	15	4.540
2. 保健・医療・福祉の現状を把握し、資源を活用してその改善を図ることができる。	VII-2	0	1	8	41	48	15	4.602
3. 地域医療に貢献することができる。	VII-3	0	1	7	40	47	18	4.655

表2-2 昨年度との比較

コンピテンシ/コンピテンシー項目		今年度		昨年度	
		平均	SD	平均	SD
I. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に自己に頼ることなく協調性、責任感、倫理観を有して行動できる。生涯にわたり、向上心を持ち自己研鑽に励む自覚を有する。	C-I	4.522	0.913	4.426	1.207
1. 医師として常識ある行動がとれる。	I-1	4.664	0.879	4.713	1.163
2. 医療にかかわる法律を理解し遵守できる。	I-2	4.688	0.936	4.585	1.115
3. 医学倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。	I-3	4.832	0.901	4.702	1.138
4. 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。	I-4	4.857	0.885	4.745	1.175
5. 自己評価を怠らず、自己管理できる。	I-5	4.522	0.913	4.426	1.189
6. 他者に対して適切な助言、指導ができ、他者からの助言、指導を受け入れられる。	I-6	4.717	0.867	4.606	1.122
7. 社会から期待される医師の役割を説明できる。	I-7	4.628	0.952	4.553	1.126
II. 藤田保健衛生大学医学部学生は卒業時に、お互いの立場を尊重して、相手から信頼される関係を築き、適切なコミュニケーションを実践することができる。	C-II	4.664	0.858	4.564	1.199
1. 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。	II-1	4.788	0.887	4.734	1.103
2. 医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。	II-2	4.699	0.921	4.691	1.176
3. 異文化を背景とする他者との適切な意思疎通の重要性を説明できる。	II-3	4.518	1.009	4.606	1.231
III. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に、専門職連携を実践できる。	C-III	4.619	0.834	4.489	1.137
1. 他職種との役割を理解し、尊重することができる。	III-1	4.796	0.833	4.723	1.086
2. 医師の役割を理解できる。	III-2	4.832	0.808	4.713	1.145
3. 患者の問題を多職種で解決に向けて取り組むことができる。	III-3	4.823	0.790	4.691	1.167
IV. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し応用できる。	C-IV	4.522	0.842	4.468	1.164
1. 正常な構造と機能	IV-1	4.571	0.831	4.340	1.181
2. 発達、成長、加齢、死	IV-2	4.593	0.794	4.404	1.151
3. 心理、行動	IV-3	4.611	0.867	4.383	1.102
4. 病因、構造と機能の異常	IV-4	4.611	0.846	4.447	1.154
5. 診断、治療	IV-5	4.611	0.825	4.532	1.164
6. 医療安全	IV-6	4.726	0.833	4.617	1.195
7. 疫学	IV-7	4.425	0.929	4.287	1.208
8. 医学統計学	IV-8	4.372	0.914	4.138	1.234
9. 医学英語	IV-9	4.133	1.101	3.979	1.337
V. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時にグローバルな視野に立って科学に興味を持ち、疑問点に対して解決するために行動することができる。	C-V	4.432	0.946	4.266	1.354
1. 自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法を学び、応用することができる。	V-1	4.398	0.936	4.202	1.317
2. 論文等の情報を適切に収集することができる。	V-2	4.327	0.999	4.064	1.351
3. 収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。	V-3	4.301	1.055	3.968	1.308
4. *海外での研究に従事することができる語学力を有する。	V-4	3.894	1.326	3.660	1.520
VI. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に患者に対しての同情心を持ち、科学的根拠に基づいた安全な診療を実施できる。	C-VI	4.593	0.869	4.532	1.235
1. 病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。	VI-1	4.504	0.832	4.415	1.134
2. 基本的臨床手技を安全に実施できる。	VI-2	4.513	0.884	4.351	1.173
3. 病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。	VI-3	4.469	0.932	4.362	1.090
4. 頻度の高い、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。	VI-4	4.504	0.832	4.426	1.096
5. 診療録を正確に記載し、診療情報を上級医に報告できる。	VI-5	4.513	0.863	4.319	1.160
6. 症例についての要約（サマリー）を作成し、プレゼンテーションできる。	VI-6	4.451	0.809	4.298	1.147
7. 病状説明や患者教育に参加できる。	VI-7	4.487	0.843	4.383	1.177
8. 個人情報保護を理解し厳守できる。	VI-8	4.796	0.952	4.585	1.241
VII. 藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に地域社会の保健・医療・福祉の施策に協力・推進し、公衆衛生の向上と増進に寄与できる。	C-VII	4.540	0.842	4.394	1.187
1. 社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。	VII-1	4.540	0.831	4.426	1.207
2. 保健・医療・福祉の現状を把握し、資源を活用してその改善を図ることができる。	VII-2	4.602	0.837	4.426	1.162
3. 地域医療に貢献することができる。	VII-3	4.655	0.849	4.436	1.163



図2-1 各項目リッカード尺度の昨年度との比較 (相関係数  $r=0.9481$ )





卒業を間近に控えた皆様へ

平成 31 年 2 月 12 日  
I R 推進センター・医学部分室長  
医学部臨床医学総論・教授  
飯塚成志

2 日間の国家試験受験、本当にお疲れ様でした。

さて、I R 推進センター・医学部分室よりお願いがございます。

※I R 推進センターとは、アンケート調査や業務データを分析することによって教育等で目的とした成果が達成されているかなど検討し、教育や運営方針の改善に役立てていくための学長直下の学内組織です。

現在の医学部カリキュラムは卒業時に本学学生ができるようになってきていること、すなわち「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に基づき策定されています。卒業する皆さんがどの程度修得できているのか、その基礎データが欠かせません。

そこで卒業が決定した皆様に、どの程度到達していると考えているかを本アンケートにてお伺いしたいと思います。ご自身の主観的な評価で結構です。

国家試験直後のアンケートとなり、お疲れのところ大変恐縮ですが、次ページからのアンケートにご協力頂くよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

次ページからの各項目について、現在のあなたが自分自身から見てどの程度修得しているかを以下の 6 段階で評価してお答えください。

- 6 : 完全に修得できた
- 5 : 概ね修得できた
- 4 : 最低水準は修得できた
- 3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない
- 2 : 十分に修得できていない
- 1 : 全く修得できていない

なお本アンケートは個人が同定されない形で集計・解析し、今後の本学医学部カリキュラム改善のためにのみ使用されます（医学部教授会等承認済）。

あなたの考える卒業生としての最低水準を4とし、6段階で評価してください。

## I 医師としてのプロフェッショナリズム

藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に自己に驕ることなく協調性、責任感、倫理観を有して行動できる。生涯にわたり、向上心を持ち自己研鑽に励む自覚を有する。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

1 医師として常識ある行動がとれる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

2 医療にかかわる法律を理解し遵守できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

3 医学倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

4 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

5 自己評価を怠らず、自己管理できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

6 他者に対して適切な助言、指導ができ、他者からの助言、指導を受け入れられる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

7 社会から期待される医師の役割を説明できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

## II コミュニケーション能力

藤田保健衛生大学医学部学生は卒業時に、お互いの立場を尊重して、相手から信頼される関係を築き、適切なコミュニケーションを実践することができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

1 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

2 医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

3 異文化を背景とする他者との適切な意思疎通の重要性を説明できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

### Ⅲ 専門職連携

藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に、専門職連携を実践できる。

- |   |                             |          |    |   |   |   |    |        |        |
|---|-----------------------------|----------|----|---|---|---|----|--------|--------|
|   | 全くできていない                    | (1       | 2  | 3 | 4 | 5 | 6) | 完全にできる |        |
| 1 | 他職種の役割を理解し、尊重することができる。      | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 2 | 医師の役割を理解できる。                | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 3 | 患者の問題を多職種で解決に向けて取り組むことができる。 | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |

### Ⅳ 医学および関連領域の知識

藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し応用できる。

- |   |             |          |    |   |   |   |    |        |        |
|---|-------------|----------|----|---|---|---|----|--------|--------|
|   | 全くできていない    | (1       | 2  | 3 | 4 | 5 | 6) | 完全にできる |        |
| 1 | 正常な構造と機能    | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 2 | 発達、成長、加齢、死  | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 3 | 心理、行動       | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 4 | 病因、構造と機能の異常 | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 5 | 診断、治療       | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 6 | 医療安全        | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |
| 7 | 疫学          | 全くできていない | (1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 6)     | 完全にできる |

8 医学統計学

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

9 医学英語

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

V 独創的探究心

藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時にグローバルな視野に立って科学に興味を持ち、疑問点に対して解決するために行動することができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

1 自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法を学び、応用することができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

2 論文等の情報を適切に収集することができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

3 収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

4 \*海外での研究に従事することができる語学力を有する。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

VI 診療の実践

藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に患者に対しての同情心をもち、科学的根拠に基づいた安全な診療を実施できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

1 病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

2 基本的臨床手技を安全に実施できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

3 病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

4 頻度の高い、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。

全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

- 5 診療録を正確に記載し、診療情報を上級医に報告できる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる
- 6 症例についての要約 (サマリー) を作成し、プレゼンテーションできる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる
- 7 病状説明や患者教育に参加できる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる
- 8 個人情報保護を理解し厳守できる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる

## VII 社会と医療

藤田保健衛生大学医学部学生は、卒業時に地域社会の保健・医療・福祉の施策に協力・推進し、公衆衛生の向上と増進に寄与できる。

- 全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる
- 1 社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる
- 2 保健・医療・福祉の現状を把握し、資源を活用してその改善を図ることができる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる
- 3 地域医療に貢献することができる。  
全くできていない (1 2 3 4 5 6) 完全にできる